

# 温暖化と獣害軽減に対応した 新たな飼料作物生産体系

## 研究のねらい

温暖化により飼料作物の生産力は増大しています。一方、獣害は作付け意欲の減退につながり、飼料作物生産の減少要因の一つとなっています。

そこで、高温条件下で生育良好でこれまでの研究成果等から獣害を受けにくいソルガムを活用して、夏季に高温となる温暖地中山間地域の気候に適した新たな飼料作物体系を確立しました。

この栽培体系では、スーダン型ソルガム新品種「涼風」(写真)の2回刈りとイタリアンライグラス(以下 IR)を組合わせて、年3回刈りとります。



写真 収穫期の「涼風」1番草

## 技術の特徴

- 「涼風」は、従来の獣害対策で利用され

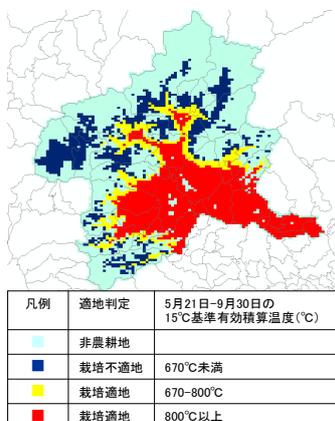


図 「涼風」2回刈り栽培導入適地(菅野ら作成)

るソルゴ型ソルガムの多収品種と比べると、収量の年次間差が小さく安定栽培が見込めます。また、3カ月(5月中旬~9月初旬)の短期間で2回刈り収穫が可能で、稈径が細く牧草と同様のロールベール体系に適していることがメリットです。

- ソルガム栽培は、苗立ち数の確保が重要ですが、播種後に覆土と鎮圧処理を行うことで苗立ち率80%以上を確保できます。
- 温暖地中山間地域における IR の播種は、単純積算気温が1,100°C以上確保できる9月下旬~10月中旬に行うことが多収を得る上で重要です。
- 「涼風」と IR 二毛作の年3回刈り栽培は、県内農耕地の大部分で導入可能な生産体系であり(図)、従来の獣害回避に利用されるソルゴ型ソルガム単作の収量に近い粗飼料が確保できます(表)。

## 今後の取り組み

フォローアップセミナーを開催して情報提供を行い、獣害等で飼料用トウモロコシの作付けが困難な地域での普及を進めます。

(執筆者:横澤 将美)

表 「涼風」+IRおよびソルゴ型ソルガム単作の収量比較

収量 (kg/10a)	栽培体系	ソルガム		IR	合計(割合)
		1番草	2番草		
乾物収量	涼風+IR	1,104	545	1,131	2,780(90)
	ソルゴ型単作	3,105	-	-	3,105(100)
TDN収量	涼風+IR	627	299	660	1,586(90)
	ソルゴ型単作	1,771	-	-	1,771(100)

注1)涼風:5月中旬に散播.1,2番草とも出穂始で収穫(7月下,8月下).

注2)IR:品種「優春」.出穂期で収穫(4月下).

注3)ソルゴ型:中晩生品種.5月中旬に散播.糊熟期で収穫(9月下).

注4)各品種の収量値は3年間(2013~2015年)の平均を示す.

連絡先:畜産試験場 飼料環境係(電話027-288-2222)